

諏訪の景気動向

平成22年11月

(平成22年10月末 D・I調査)

平成22年11月16日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 22 年 10 月末）

「平成 22 年 10 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 187 社のご協力を得て行った 10 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は 9.1 と前回調査時（平成 22 年 7 月末、以下同）の 36.7 から 45.8 ポイント悪化し 3 期振りにマイナスに転じた。製造業の業況判断 D I は 2.2 と前回調査時の 38.9 から 41.1 ポイント悪化し、平成 21 年 4 月調査以来 6 期振りのマイナスに転じた。非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断 D I も、猛暑効果のあった 7 月の前回調査時に比べ商業や観光で「悪化」企業の割合が増加したことから、同 D I は前回調査時の 30.8 から 56.3 ポイント悪化し 25.5 とマイナスに転じた。

製造業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「好転」企業 22.0%、「横這」企業 53.8%、「悪化」企業 24.2%で同 D I は 2.2 と前回調査時の 38.9 から 41.1 ポイント悪化し、平成 21 年 4 月調査以来 6 期振りにマイナスに転じ、リーマン・ショック以降の回復基調から一転し踊り場の状況となっている。また、先行きに関しても、「3 ヶ月後」の業況予想 D I では 34.1%の企業が「悪化」を見込んでおり、同 D I は 25.0 と不透明な状況を予想している。

「3 ヶ月前」と比べた受注状況は、「増加」企業 24.2%、「悪化」企業 29.5%と企業により増減は区々であるが、同 D I は 5.3 と前回調査時の 44.2 から大幅に悪化し業況判断 D I と同様に 6 期振りにマイナスに転じた。規模別の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I では、各規模とも前回調査時より「悪化」企業の割合が増加しており、「30～99 人企業」では前回調査時の 47.8 から 11.4、「100 人以上企業」では前回調査時の 37.0 から 3.9 へと D I 値は大幅に悪化している。業種別の「3 ヶ月前」と比べた受注状況は、エコカー補助金終了の影響が出ている輸送用機械では 50.0%の企業が「悪化」したとして同 D I は 35.7 と前回調査時の 61.5 から一転してマイナスに転じ、「3 ヶ月後」の受注予想 D I では、金属製品・輸送用機械・精密機械で「増加」を見込む企業はなく厳しい受注環境を予想している。

ヒアリング調査では、円高の影響によるコストダウン要請や新興国内での現地調達の強化等により受注は弱含んできており、エコカー補助金終了に続く家電エコポイントの縮小等の動向もあわせ不透明感が強くきかれる。

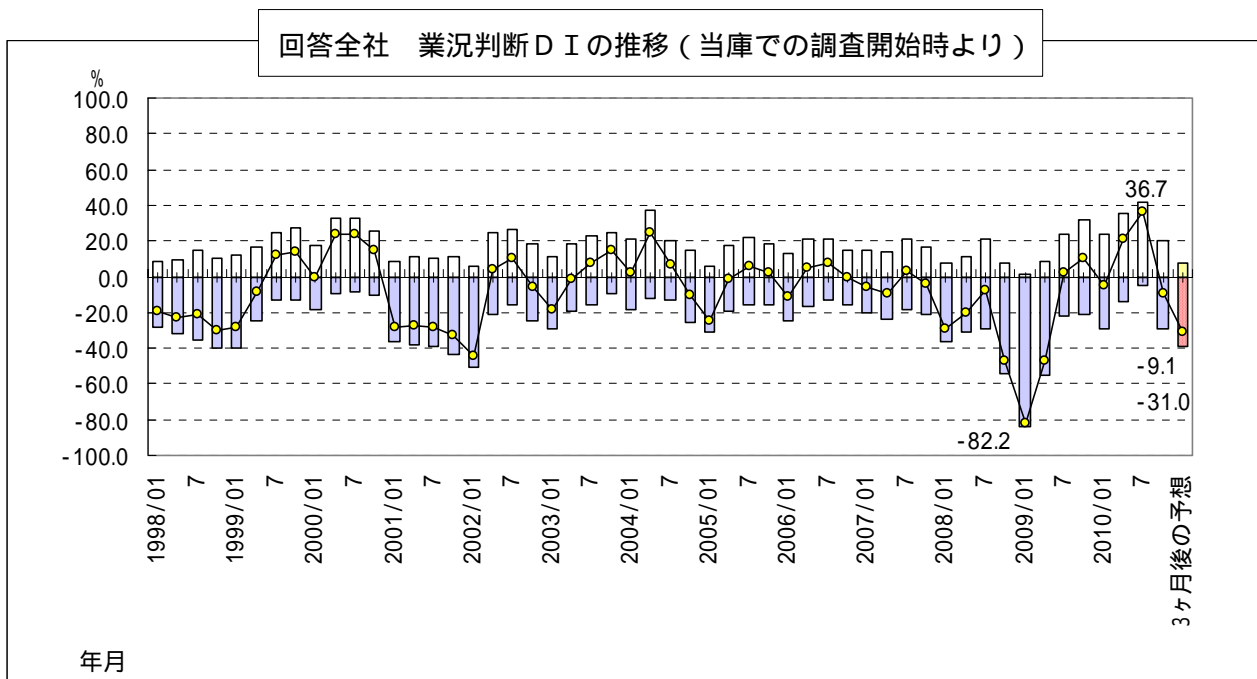
商業は、諏訪地方の 10 月の天候は上旬には晴れた日が多く気温は高止まりしたが、中旬以降は寒気の影響で気温が低くなる日があった。食料品では、御柱の小宮祭の需要を取り込んだ店舗では売れ上げの増加がきかれ、衣料品でも中旬以降の冷え込みと子ども手当の支給などから子供服や婦人衣料の売れ行きは比較的堅調であった。また、家電店では 12 月からの家電エコポイントの半減を前に駆け込み需要がみられ、薄型 TV を中心に売れ行きは好調であった。

ただし、エコカー補助金終了による自動車販売の落ち込みやたばこ増税によるコンビニの来店客の低下などもみられ、猛暑効果のあった「3 ヶ月前」に比べた業況判断 D I では 62.5%の店舗で「悪化」したとして同 D I は 50.0 と前回調査時の 20.0 から再びマイナスに転じた。

観光・サービス業は、秋の行楽シーズンを向かえるなか「信州デスティネーションキャンペーン」の開幕もあり各観光地は入り込み客で賑わいをみせた。なかでも、諏訪大社（上社・下社合算）の10月の参拝者数は前年同月比+55.2%の約68千人と大幅な増加となった。ただし、ホテル旅館への調査では、「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iでは43.5%の施設が「悪化」として同D Iは17.4、「前年同期」と比べた業況判断では52.2%の施設が「悪化」として同D Iは39.2と、引き続き宿泊を伴った滞在型観光への展開が課題となっている。

建設業の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「横這」とする企業が87.5%、「悪化」とする企業が12.5%で同D Iは12.5と前回調査時の0.0から再びマイナスに転じた。また、「3ヶ月後の予想」では、「業況」・「受注状況」・「外注発注量」で「好転」を見込む企業はなく、引き続き厳しい状況を予想している。建築工事は、諏訪地方の9月の新設住宅着工戸数は87戸で、昨年同月の99戸に比べ12戸（12.1%）の減少となった。また、平成22年4月～9月の累計着工戸数は517戸で前年同期累計比では114戸（18.1%）の減少となっている。土木工事では、10月の公共工事の発注状況は県関係が19件259百万円、市町村関係が98件1,076百万円となっている。

雇用状況は、平成22年9月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月を+0.24ポイント上回り0.65倍と前年同月を6ヶ月連続で上回っているが、依然として低水準で推移している。また、長野県の同倍率は0.62倍、全国の同倍率は0.55倍となっている。なお、諏訪地域の9月の新規求人(全数)は1,085人で前年同月比+129人(+13.5%)の増加、新規求職者数は1,103人で前年同月比+129人(+13.2%)の増加となっている。また、1件10人以上の人員整理は0件で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は74人と前年同月より63人減少、前月より+8人の増加となった。



業況判断D Iの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（187社）の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業が19.8%、「横這」企業が51.3%、「悪化」企業が28.9%で、同D Iは 9.1と前回調査時の36.7から45.8ポイント悪化し3期振りにマイナスに転じた。

製造業の業況判断D Iは、「好転」企業22.0%、「横這」企業53.8%、「悪化」企業24.2%で同D Iは 2.2と前回調査時の38.9から41.1ポイント悪化し、平成21年4月調査以来6期振りにマイナスに転じ、リーマン・ショック以降の回復基調から一転し踊り場の状況となっている。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断D Iは、猛暑効果のあった7月の前回調査時に比べ商業や観光で「悪化」企業の割合が増加したことから、同D Iは前回調査時の30.8から56.3ポイント悪化し 25.5とマイナスに転じた。

産業別業況表

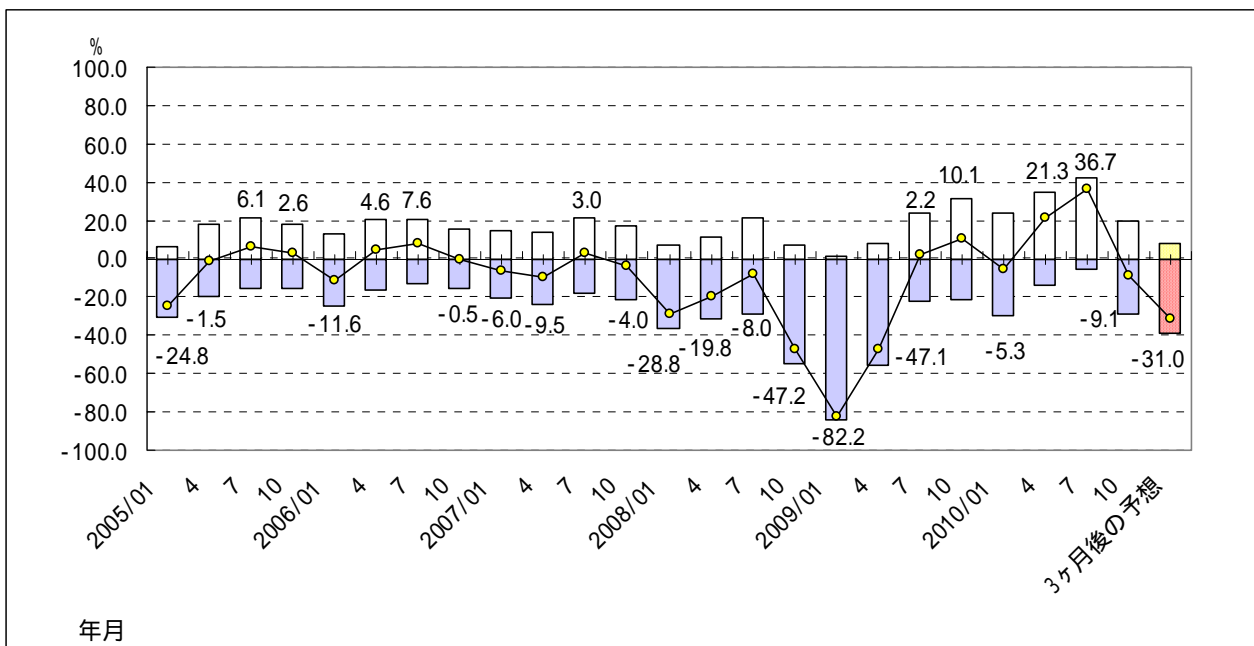
（企業数・%）表 - 1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	187	19.8	51.3	28.9	-9.1	187	45.5	32.6	21.9	23.6	187	8.0	52.9	39.0	-31.0
製造業	132	22.0	53.8	24.2	-2.2	132	60.6	28.0	11.4	49.2	132	9.1	56.8	34.1	-25.0
非製造業	55	14.5	45.5	40.0	-25.5	55	9.1	43.6	47.3	-38.2	55	5.5	43.6	50.9	-45.4
商業(大型店)	16	12.5	25.0	62.5	-50.0	16	12.5	12.5	75.0	-62.5	16	0.0	25.0	75.0	-75.0
建設業	16	0.0	87.5	12.5	-12.5	16	0.0	87.5	12.5	-12.5	16	0.0	87.5	12.5	-12.5
観光・サービス	23	26.1	30.4	43.5	-17.4	23	13.0	34.8	52.2	-39.2	23	13.0	26.1	60.9	-47.9

自社業況判断D Iの推移

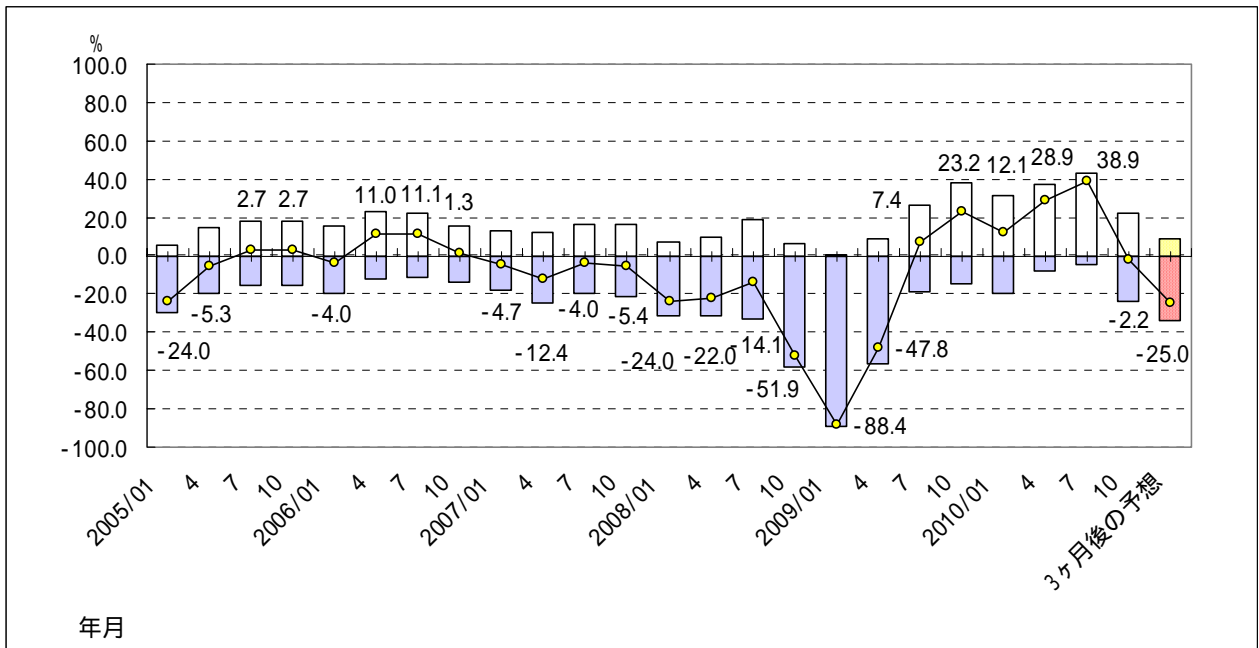
回答全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ - 1



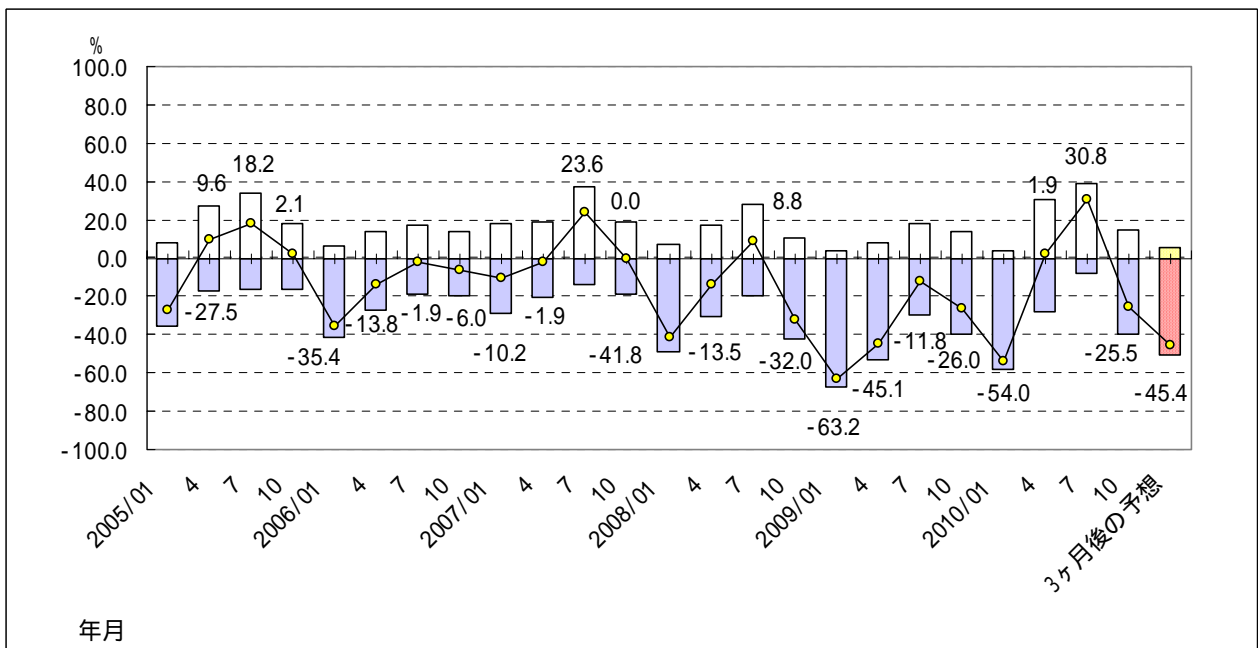
製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ - 2



非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ - 3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業 22.0%、「横這」企業 53.8%、「悪化」企業 24.2%で同DIは 2.2 と前回調査時の 38.9 から 41.1 ポイント悪化し、平成 21 年 4 月調査以来 6 期振りにマイナスに転じた。リーマン・ショックによる落ち込みがあった平成 21 年 1 月調査の 88.4 を底に回復基調が続いてきたが、急速な円高や各種政策効果の息切れ等から製造業の景況は踊り場の状況を迎えている。また、先行きに関しても、「3ヶ月後」の業況予想DIでは34.1%の企業が「悪化」を見込んでおり、同DIは 25.0 と厳しい見方となっている。

収益性DIは、「3ヶ月前」と比べ収益性が「好転」した企業が 12.1%、「悪化」した企業が 23.5%で同DIは 11.4 と前回調査時の 15.1 から 26.5 ポイント悪化し 3 期振りにマイナスに転じた。「3ヶ月後」の収益性予想DIでは 31.1%の企業が「悪化」を見込み、同DIは 25.0 となっている。

「3ヶ月前」と比べた受注状況は、「増加」企業 24.2%、「悪化」企業 29.5%で同DIは 5.3 と前回調査時の 44.2 から大幅に悪化し、業況判断DIと同様で 6 期振りにマイナスに転じた。また、「3ヶ月後」の受注予想DIでも 36.4%の企業がさらなる「悪化」を予想している。

規模別の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、各規模とも前回調査時より「減少」企業の割合が大幅に増加しており、「1～29人企業」のみが 1.6 とプラスを維持するも、「30～99人企業」は 13.7、「100人以上企業」は 7.7 へとDI値はマイナスに転じている。

業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況は、エコカー補助金終了の影響が出ている輸送用機械では 50.0%の企業が「悪化」したとして同DIは 35.7 と前回調査時の 61.5 から一転してマイナスに転じ、「3ヶ月後」の受注予想DIでは、金属製品・輸送用機械・精密機械で「増加」を見込む企業はなく厳しい受注環境を予想している。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表 - 2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	132	22.0	53.8	24.2	-2.2	132	60.6	28.0	11.4	49.2	132	9.1	56.8	34.1	-25.0	
規模	1～29人	62	22.6	59.7	17.7	4.9	62	59.7	32.3	8.1	51.6	62	8.1	61.3	30.6	-22.5
	30～99人	44	22.7	43.2	34.1	-11.4	44	59.1	25.0	15.9	43.2	44	11.4	50.0	38.6	-27.2
	100人～	26	19.2	57.7	23.1	-3.9	26	65.4	23.1	11.5	53.9	26	7.7	57.7	34.6	-26.9
分類	金属製品製造業	19	10.5	68.4	21.1	-10.6	19	63.2	15.8	21.1	42.1	19	0.0	68.4	31.6	-31.6
	一般機械器具製造業	31	19.4	54.8	25.8	-6.4	31	64.5	25.8	9.7	54.8	31	12.9	58.1	29.0	-16.1
	電気機械器具製造業	28	28.6	42.9	28.6	0.0	28	75.0	14.3	10.7	64.3	28	17.9	53.6	28.6	-10.7
	輸送用機械器具製造業	14	14.3	57.1	28.6	-14.3	14	85.7	7.1	7.1	78.6	14	0.0	57.1	42.9	-42.9
	精密機械器具製造業	14	50.0	50.0	0.0	50.0	14	42.9	50.0	7.1	35.8	14	0.0	64.3	35.7	-35.7

諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iでは「横這」とする企業割合が68.4%と最も多いものの、「好転」とする企業割合が10.5%と5業種の中で最も少なく、同D Iは10.6と前回調査時の17.6から28.2ポイント悪化した。また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでも「横這」を見込む企業割合が68.4%と最も多いものの、「好転」を見込む企業はなく同D Iは31.6と落ち込んでいる。

一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは6.4と前回調査時の41.6から48.0ポイント悪化しマイナスに転じた。また、前回調査時の「3ヶ月後」の業況予想D Iは22.2と5業種のなかで最も高かったものの、今回調査では29.0%の企業で「悪化」を見込んでおり同D Iは16.1となっている。

電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

前回調査時の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iでは、「悪化」とする企業はなく同D Iは48.1と高水準だったものの、今回調査では「好転」企業28.6%、「横這」企業42.9%、「悪化」企業28.6%で同D Iは0.0と企業により景況感は区々となっている。

輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは14.3と前回調査時の53.8から大幅に悪化しており、悪化幅やD I値は5業種のなかで最も厳しい数値となっている。前回調査時にはエコカー補助金終了の影響による悪化傾向は見込まれていたものの、今後の「3ヶ月後」の業況予想D Iでも「好転」を見込む企業はなく、「悪化」を見込む企業が42.9%で同D Iは42.9ともう一段の落ち込みを予想している。

精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業が50.0%、「横這」企業が50.0%で同D Iは50.0と前回調査時の57.2から若干悪化したものの高水準を維持している。一方、「3ヶ月後」の業況予想では「好転」を見込む企業は0.0%、「悪化」を見込む企業は35.7%で同D Iは35.7と慎重な見方となっている。

小分類、他の製造業

小分類の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iでは、金属工作機械の同D I40.0をはじめとして、ほとんどの分類でD I値はマイナスに転じた。

規模別業況

規模別の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIでは、各規模とも前回調査時より「悪化」したとする企業割合が増加しており、「30～99人企業」では前回調査時の47.8から11.4、「100人以上企業」では前回調査時の37.0から3.9へと大幅に悪化している。また、「3ヵ月後」の業況予想DIでは各規模とも「悪化」を見込む企業割合が30%以上あり、「横這」とする企業割合が最も多いものの同DIは全ての規模でマイナスに転じている。

受注状況DI（規模別、業種別）

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況は、「増加」企業24.2%、「悪化」企業29.5%で同DIは5.3と前回調査時の44.2から大幅に悪化し6期振りにマイナスに転じた。また、「3ヶ月後」の受注予想でも36.4%の企業が「悪化」を予想しており、同DIは25.0となっている。

規模別の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、各規模とも前回調査時より「減少」企業の割合が増加しており、「1～29人企業」のみが1.6とプラスを維持するも、「30～99人企業」では前回調査時の56.5から13.7、「100人以上企業」では前回調査時の44.5から7.7へと大幅に悪化している。また、「3ヵ月後」の受注予想DIでも各規模とも「悪化」を予想する企業割合が増加しており、なかでも「30～99人企業」では43.2%の企業で「悪化」を予想し、同DIは31.8と前回調査時の6.6から38.4ポイントの大幅な悪化となった。

業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況は、精密機械のみが50.0とプラスを維持するものの、その他の4業種では「減少」企業の割合が増加しマイナスに転じている。なかでも、エコカー補助金終了の影響が出ている輸送用機械では、50.0%の企業が「悪化」したとして同DIは35.7と前回調査時の61.5から一転してマイナスに転じた。また、「3ヶ月後」の受注予想DIでは、金属製品・輸送用機械・精密機械で「増加」を見込む企業はなく、厳しい受注環境を予想している。

業種別・規模別受注状況表

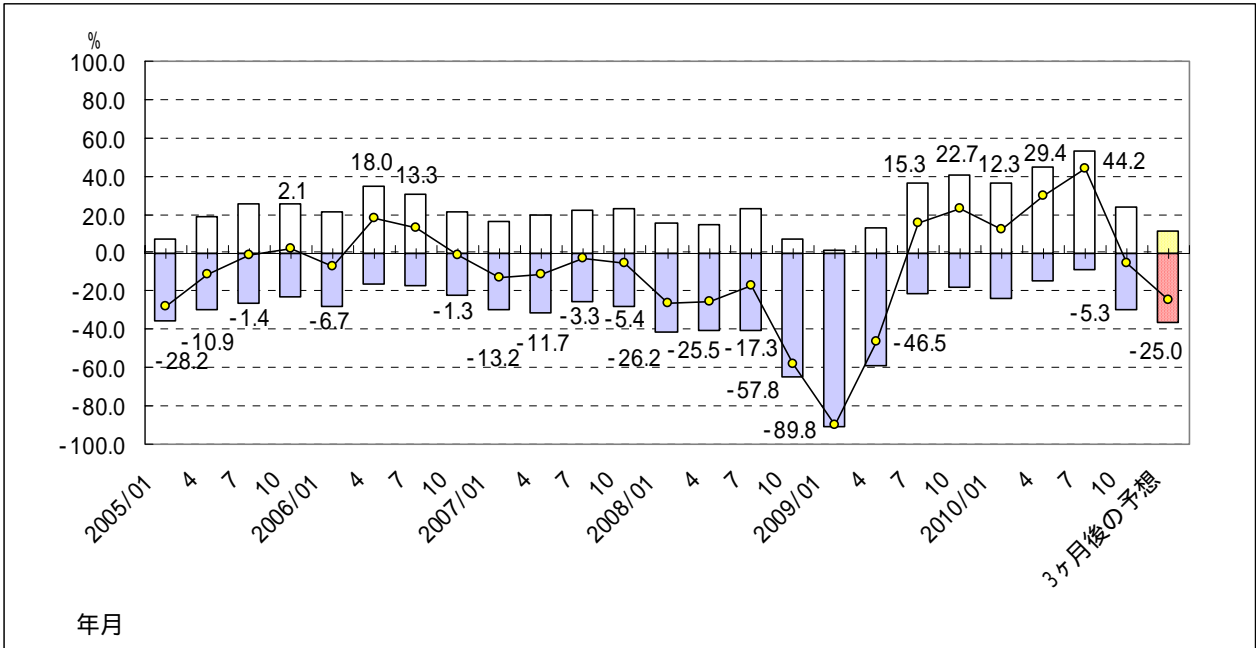
表 - 3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	132	24.2	46.2	29.5	-5.3	132	57.6	26.5	15.9	41.7	132	11.4	52.3	36.4	-25.0	
規模	1～29人	62	27.4	46.8	25.8	1.6	62	53.2	33.9	12.9	40.3	62	11.3	54.8	33.9	-22.6
	30～99人	44	22.7	40.9	36.4	-13.7	44	59.1	20.5	20.5	38.6	44	11.4	45.5	43.2	-31.8
	100人～	26	19.2	53.8	26.9	-7.7	26	65.4	19.2	15.4	50.0	26	11.5	57.7	30.8	-19.3
分類	金属製品製造業	19	10.5	68.4	21.1	-10.6	19	52.6	21.1	26.3	26.3	19	0.0	52.6	47.4	-47.4
	一般機械器具製造業	31	25.8	41.9	32.3	-6.5	31	67.7	19.4	12.9	54.8	31	19.4	51.6	29.0	-9.6
	電気機械器具製造業	28	25.0	42.9	32.1	-7.1	28	67.9	17.9	14.3	53.6	28	21.4	57.1	21.4	0.0
	輸送用機械器具製造業	14	14.3	35.7	50.0	-35.7	14	78.6	14.3	7.1	71.5	14	0.0	57.1	42.9	-42.9
	精密機械器具製造業	14	50.0	50.0	0.0	50.0	14	50.0	42.9	7.1	42.9	14	0.0	64.3	35.7	-35.7

製造業の受注状況D Iの推移

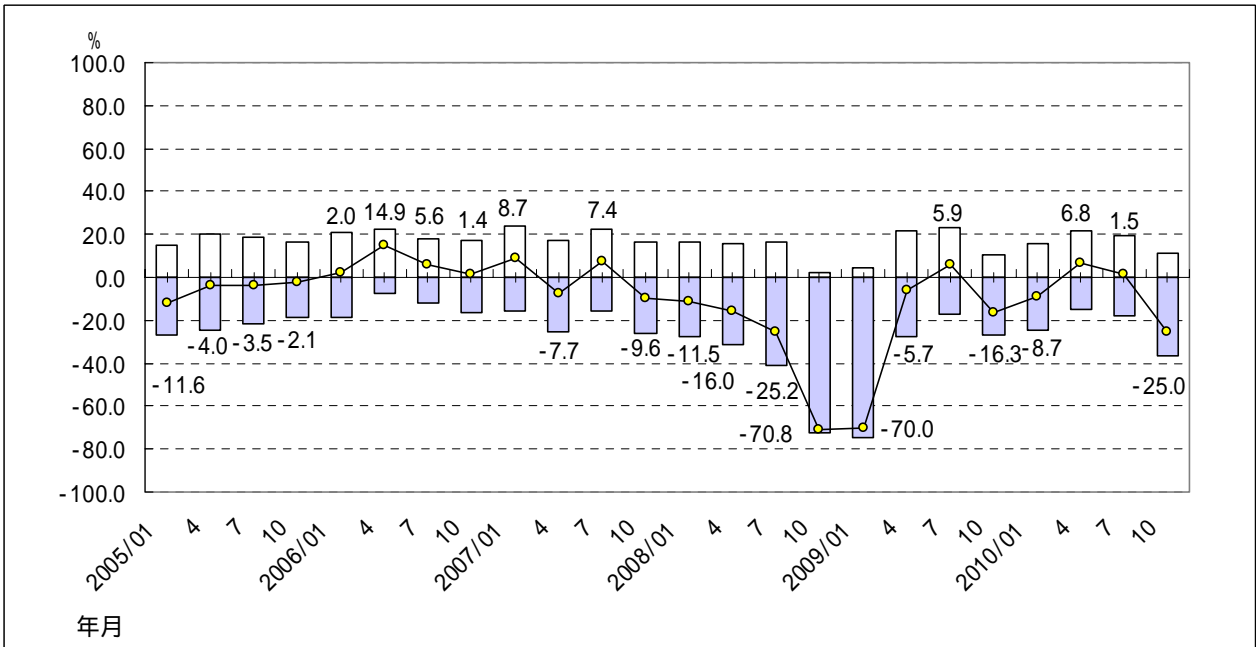
製造業全社：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフ - 4



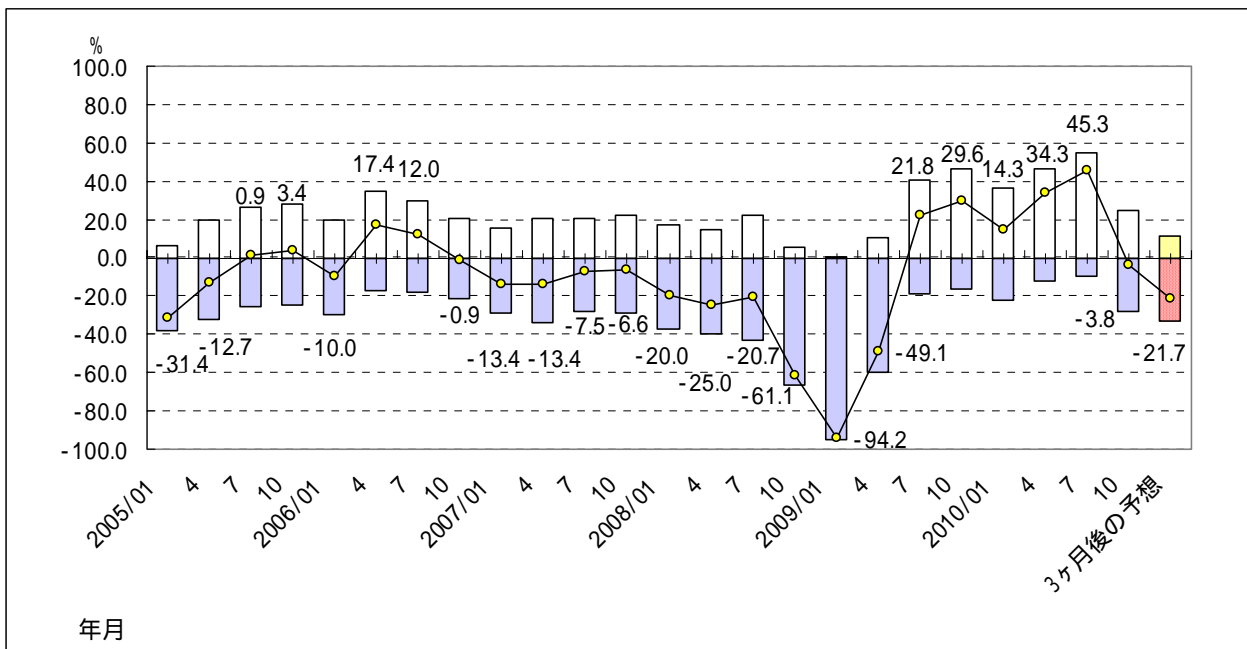
製造業全社：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフ - 5



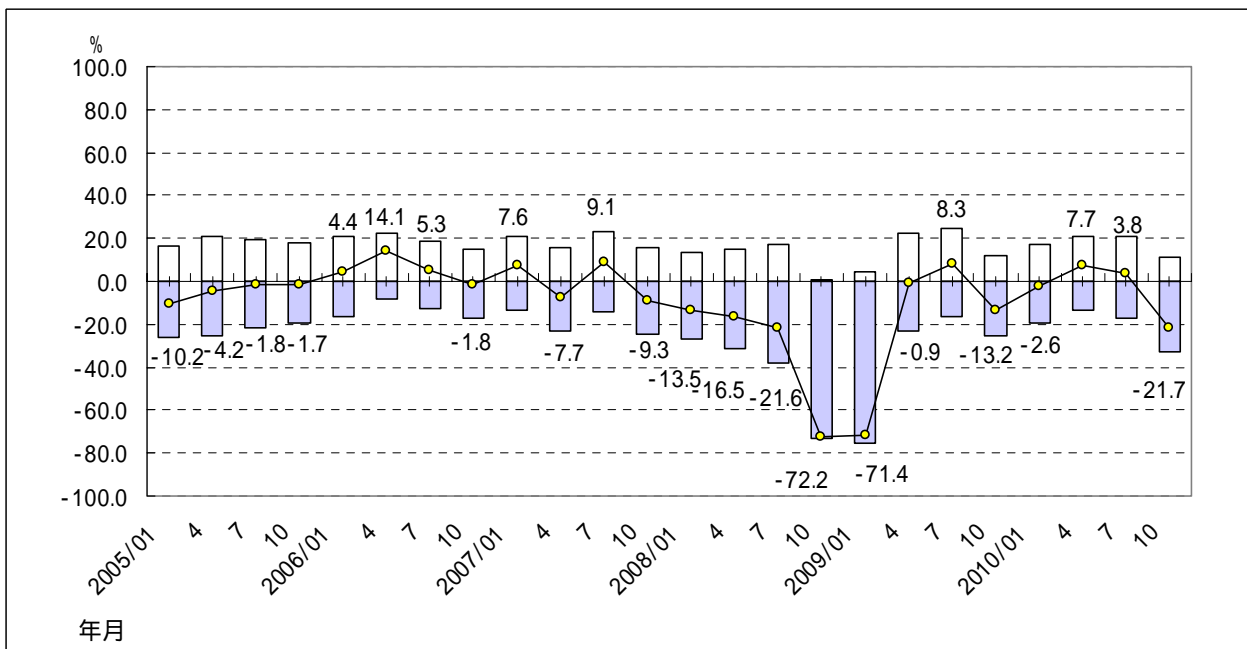
製造業 主要5業種：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフ - 6



製造業 主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフ - 7



2. 商業・観光サービス業

商業

諏訪地方の10月の天候は、上旬は晴れた日が多く気温が高止まりしたが、中旬以降は寒気の影響で気温が低くなる日があった。気温の冷え込みから秋物衣料や鍋物食材、暖房用品などに動きがみられたものの、猛暑効果のあった「3ヶ月前」に比した業況判断では62.5%の店舗で「悪化」したとして同DIは50.0と前回調査時の20.0から再びマイナスに転じた。

エコポイントの半減を前にした薄型TVの特需、たばこ増税による禁煙関連商品の伸びがきかれるものの、エコカー補助金終了による自動車販売の落ち込みやコンビニの来店客の低下など各店舗の売り上げに対する各種政策の影響がきかれる。

食料品 御柱の小宮祭の需要を取り込んだ店舗では、売れ上げの増加がきかれる。鍋物食材やみかん・りんごなどの動きも良いが、引き続き価格競争は厳しい。

衣料品 中旬以降の冷え込みと子ども手当への支給などから、子供服や婦人衣料の売れ行きは比較的堅調であった。

自動車 諏訪地方の10月の車庫証明件数（軽除く）は889台で前年同月比100台（10.1%）とエコカー補助金終了による落ち込みがみられる。

大型家電店 12月からの家電エコポイントの半減を前に駆け込み需要がみられ、薄型TVを中心に売れ行きは好調である。

ホームセンター 暖房関連用品などは中旬以降に動きが出始めたが、例年を下回った模様である。

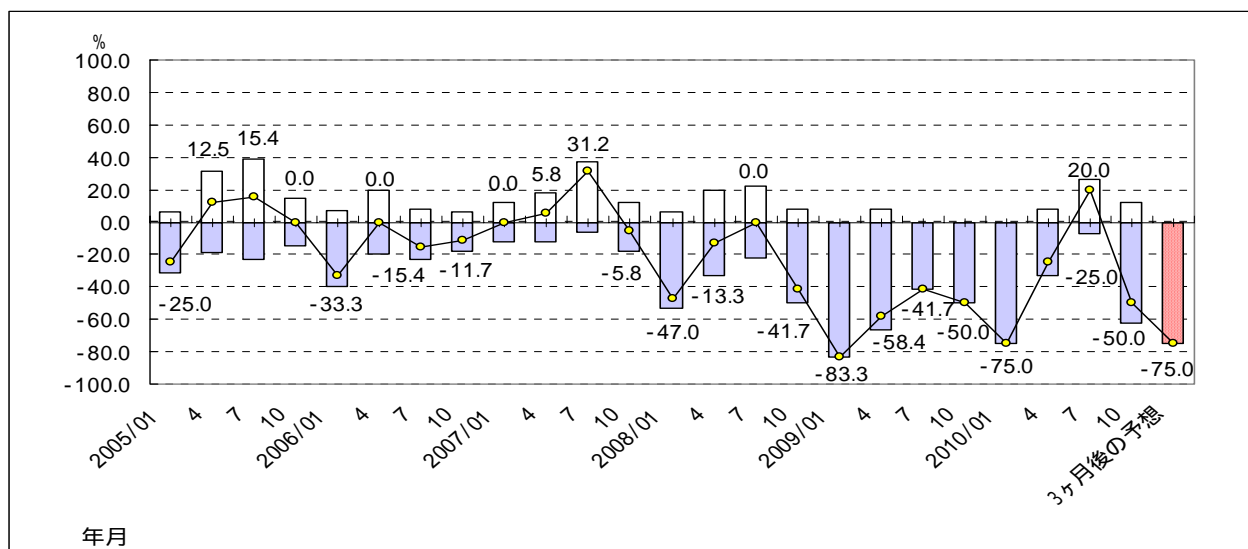
業況、客単価、来店客数

表 - 4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	12.5	25.0	62.5	-50.0	16	12.5	12.5	75.0	-62.5	16	0.0	25.0	75.0	-75.0
客単価	16	0.0	75.0	25.0	-25.0	16	0.0	75.0	25.0	-25.0	16	0.0	75.0	25.0	-25.0
来店客数	16	0.0	25.0	75.0	-75.0	16	12.5	12.5	75.0	-62.5	16	12.5	6.3	81.3	-68.8

商業全社：「3ヶ月前」と比した業況判断DIの推移

グラフ - 8



観光・サービス業

秋の行楽シーズンを向かえ、信州デスティネーションキャンペーンの開幕などにより各観光地は入り込み客で賑わいをみせた。なかでも、諏訪大社（上社・下社合算）の10月の参拝者数は前年同月比+55.2%の約68千人と大幅な増加となった。

ただし、ホテル旅館への調査では、「3ヶ月前」と比べた業況判断では43.5%の施設が「悪化」として同DIは-17.4、「前年同期」と比べた業況判断では52.2%の施設が「悪化」として同DIは-39.2と、引き続き宿泊を伴った滞在型観光への展開が課題となっている。

上諏訪温泉 信州DCや温泉泊覧会「ズーラ」の効果から、ホテル旅館により区々であるが総体の宿泊者数は前年同月比+10%程度増加した。

蓼科・白樺湖・ 紅葉のシーズンを迎え入り込み客で賑わったものの、宿泊客数はホテル旅館に車山方面ほかより前年並みから前年同月比-10%減少まで区々の推移となっている。

下諏訪温泉 宿泊客数は前年並みを維持するも、宴会需要の低下がみられる。

諏訪大社 上社・下社を合わせた10月の参拝客数は約68千人と、前年同月比約+24千人（+55.2%）の大幅な増加となった。御柱祭や万治の石仏のPR効果、さらにはパワースポットとしての人気がかかる。

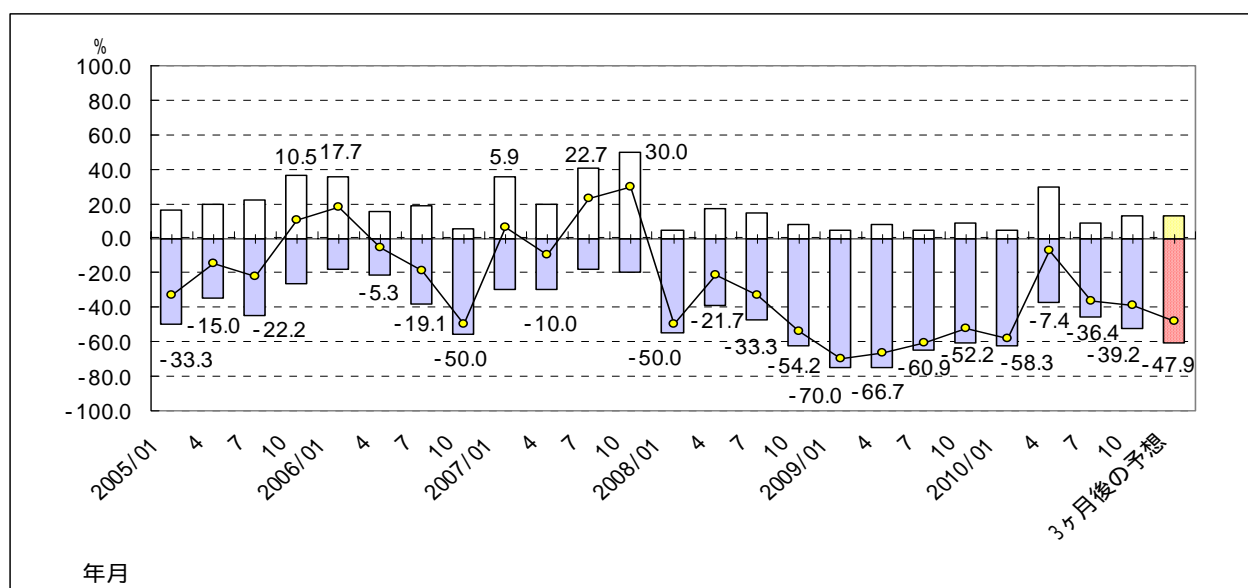
業況、売上、宿泊客

表 - 5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	23	26.1	30.4	43.5	-17.4	23	13.0	34.8	52.2	-39.2	23	13.0	26.1	60.9	-47.9
客単価	23	17.4	47.8	34.8	-17.4	23	8.7	43.5	47.8	-39.1	23	8.7	30.4	60.9	-52.2
宿泊客数	23	30.4	21.7	47.8	-17.4	23	21.7	30.4	47.8	-26.1	23	13.0	13.0	73.9	-60.9

観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ - 9



3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「横這」とする企業が87.5%、「悪化」とする企業が12.5%で同DIは12.5と前回調査時の0.0から再びマイナスに転じた。

また、「3ヶ月後の予想」では、「業況」・「受注状況」・「外注発注量」で「好転」を見込む企業はなく、引き続き厳しい状況を予想している。

建築工事

諏訪地方の9月の新設住宅着工戸数は87戸で、昨年同月の99戸に比べ12戸(12.1%)の減少となった。また、平成22年4月～9月の累計着工戸数は517戸で前年同期累計比では114戸(18.1%)の減少となっている。

土木工事

10月に地元業者が受注した県関係の公共工事は19件259百万円で、平成22年4月～10月の累計契約は114件3,158百万円と前年同期累計比では+8件、+382百万円の増加となった。

また、市町村の10月の発注工事は、建築工事7件65百万円、土木工事・下水道工事77件926百万円、その他工事14件84百万円の合計98件1,076百万円となっている。

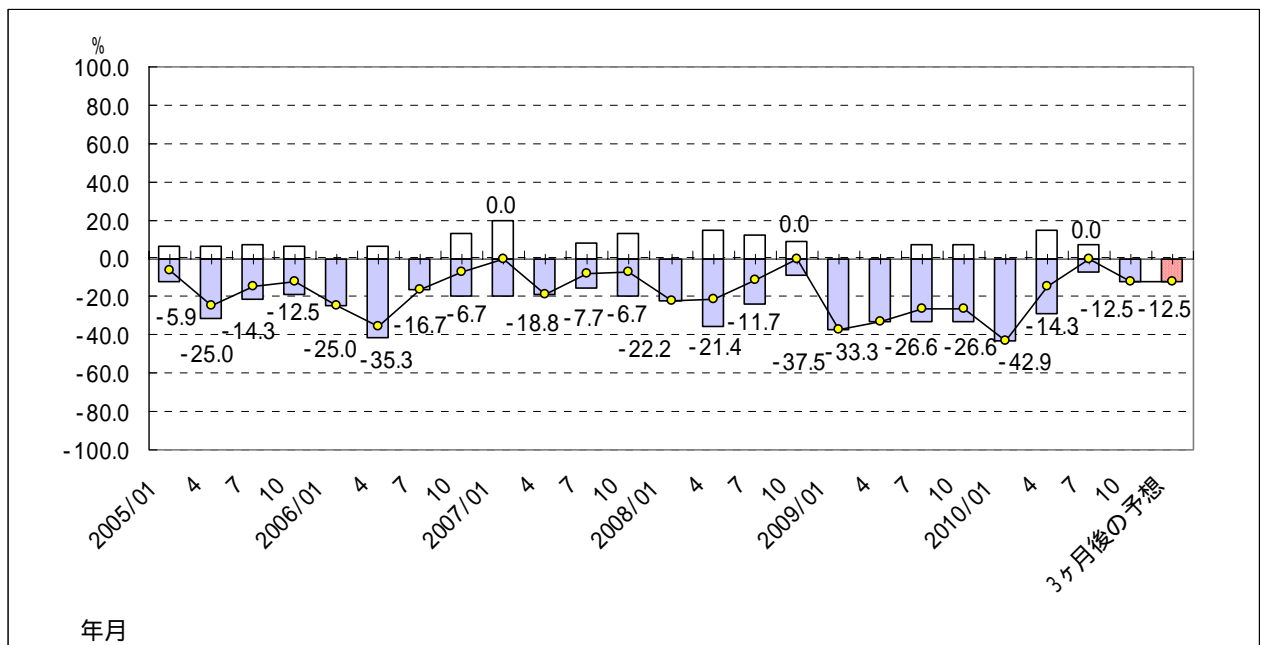
業況、受注状況、外注発注量

表 - 6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	0.0	87.5	12.5	-12.5	16	0.0	87.5	12.5	-12.5	16	0.0	87.5	12.5	-12.5
受注状況	16	12.5	37.5	50.0	-37.5	16	12.5	62.5	25.0	-12.5	16	0.0	62.5	37.5	-37.5
外注発注量	16	0.0	37.5	62.5	-62.5	16	12.5	43.8	43.8	-31.3	16	0.0	50.0	50.0	-50.0

建設業全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ - 10



4. 収益性状況

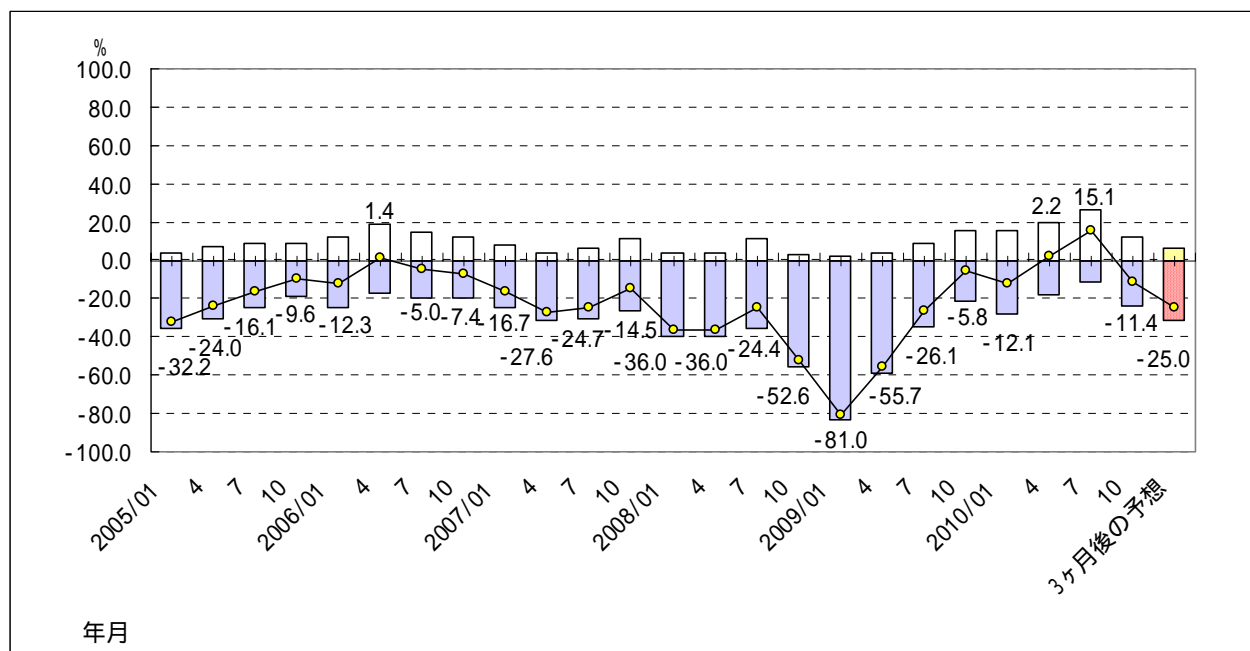
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは、「好転企業」10.7%、「横這企業」63.6%、「悪化企業」25.7%で同D Iは 15.0 と前回調査時の 11.0 から 26.0 ポイント悪化しマイナスに転じた。

製造業は、「3ヶ月前」と比べ収益性が「好転」した企業が12.1%、「悪化」した企業が23.5%で同D Iは 11.4 と前回調査時の 15.1 からマイナスに転じ、「3ヶ月後の予想」では「悪化」を見込む企業が31.1%で同D Iは 25.0 と厳しい見方となっている。

非製造業の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは 23.6 と前回調査時の 0.0 からマイナスに転じ、「3ヶ月後の予想」では「悪化」を見込む企業が41.8%で同D Iは 38.2 となっている。

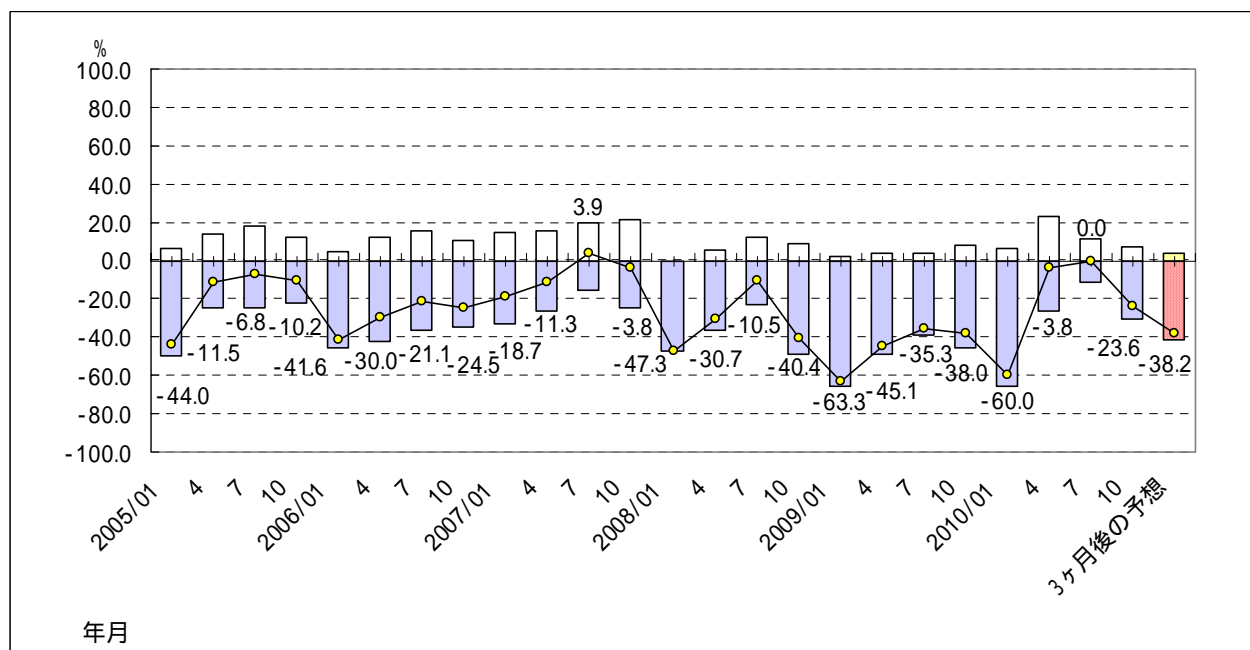
製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフ - 11



非製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフ - 12



5. 経営上の課題

経営上の課題として、製造業は売上減少、単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、商業は売上減少、競争激化、建設業は競争激化、売上減少、観光・サービス業は売上減少、単価引下げ、資金繰りをあげている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	105	63	13	11	18
単価引下げ	72	52	5	4	11
競争激化	66	40	10	12	4
資金繰り	40	27	2	1	10
人件費	32	21	6	0	5
労働力確保	13	11	0	0	2

6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【9月】	ハローワーク諏訪	0.65倍	+0.24ポイント	
手形交換高【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	6,061枚	581枚	
	金額	8,190百万円	570百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	4枚	+3枚
	金額	1,221千円	+927千円	
電力使用量【10月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	44,969 MWh	+0.2%	
	高圧電力計	99,579 MWh	+7.6%	
	合計	144,548 MWh	+5.2%	
車庫証明取扱件数【10月】(諏訪地方合計)		889件	10.1%	
新設住宅着工戸数【H22.4月~9月】(諏訪管内)		517戸	18.1%	

7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

調査期間 平成22年10月末

調査内容 「平成22年10月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想

調査方法 アンケート調査(回答数 下記7)及びヒアリング調査(約120社)

対象地域 諏訪地域全域

業種 製造業、商業(大型店：売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業

回答企業数 187企業

回答率 70.0%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	200	20	20	27	267
回答数	132	16	16	23	187